

SENJU Ophthalmic Seminar

LIVE WEB開催

日時：2020年9月23日(水) 19:30~21:00

特別講演Ⅰ 19:30~20:15

座長：ルミネはたの眼科 院長 秦野 寛 先生

『 Ocular Surface最後のUnmet needs：
マイボーム腺機能不全の最新の診断と治療 』

演者：伊藤医院 副院長 LIME研究会代表
有田 玲子 先生



特別講演Ⅱ 20:15~21:00

座長：東海大学医学部医学科 専門診療学系眼科学
教授 鈴木康之先生

『 緑内障薬物治療update 』

演者：東京大学医学部眼科学教室
教授 相原 一 先生





『 Ocular Surface最後のUnmet needs:
マイボーム腺機能不全の最新の診断と治療 』

演者：伊藤医院 副院長 LIME研究会代表
有田 玲子 先生

【ご略歴】

1994 京都府立医科大学卒業
1997 大阪大学細胞生体工学センター（染色体機能構造分野）留学
2001 京都府立医科大学大学院博士課程修了
2002 慶應義塾大学眼科助手
2005 伊藤医院眼科副院長
2007 東京大学眼科臨床研究員
2011 慶應義塾大学眼科講師（非常勤）

【抄録】

マイボーム腺は瞼板に存在し、涙液油層を分泌している。まぶたと涙液、両方にまたがった疾患である。つまり、マイボーム腺機能不全（Meibomian Gland Dysfunction, MGD）は眼瞼炎の一因であり、蒸発亢進型ドライアイの主因である。日常の一般診療において私たち眼科医が遭遇する最も頻度の高い疾患のひとつだが、失明しない疾患のため、見過ごされがちだった。今までは対症療法としての治療法しかなく、根本治療として眼科医が処方できる局所治療薬は皆無だった。

2019年秋にアジスロマイシン点眼液が本邦でも処方できるようになり、状況は大きく変わった。そもそもアジスロマイシン点眼液は2007年に米国FDAに承認されて以来、MGDの特効薬として国際的ガイドラインに掲載され、現在、26カ国で承認され、30報以上の論文でMGDに対する効果が報告されている。マクロライド系の抗菌薬であるが、MGDへの作用機序は抗炎症であると考えられている。処方の際には眼瞼炎の病名が必要である（MGDはAAOの分類においても眼瞼炎の一因である）。

本講演では、MGD治療の本陣を“抗炎症”に置き、実際のMGD患者に処方した臨床例を多数供覧し、最もよい適応や処方のコツを紹介する。さらに国際的に最先端の治療機器であるLipiFlowやIPL（M22）を紹介し、重症度による治療方法の使い分けについても言及したい。本講演は、明日からのMGD診療に役立つ実践的な講演としていく予定である。



『緑内障薬物治療update』

演者：東京大学医学部眼科学教室

教授 相原 一 先生

【ご略歴】

1989年 東京大学医学部医学科卒業
1998年 東京大学大学院生化学細胞情報部門卒業 医学博士
1998年 東京大学医学部眼科学教室 文部教官助手
2000年 カリフォルニア大学サンディエゴ校緑内障センター 臨床指導医
2001年 カリフォルニア大学サンディエゴ校緑内障センター 主任研究員
2003年 東京大学医学部眼科学教室 医学部専任講師
2012年 東京大学医学部眼科学教室 准教授
2012年 四谷しらと眼科 副院長
2014年 東京医科歯科大学医学部眼科学教室 特任教授 兼任
2015年 東京大学医学部眼科学教室 教授
2020年 日本緑内障学会 理事長

【抄録】

緑内障眼圧下降薬の変遷は目覚ましく、1999年よりPG関連薬（FP受容体作動薬）が登場して以来多くの点眼薬が開発されてきた。ただ、選択肢が多くなったための弊害も明らかになり、点眼による眼圧下降療法を持続するあまり、副作用が増強したり、アドヒアランスが悪くなったり、また追加眼圧下降の評価を繰り返している間に、手術治療へのタイミングを逸したりすることが起こっている。最近では第一選択のFP受容体作動薬によりおこる一部の患者に顕著な眼周囲の副作用は、患者のコスメティックな問題だけではなく、我々の緑内障診断治療における弊害も起こしてきている。

緑内障診療ガイドライン第4版にもあるように、多くの薬剤のなかで、主要な薬剤はFP作動薬、 β 遮断薬、 $\alpha 2$ 作動薬、炭酸脱水酵素阻害薬、ROCK阻害薬である。最近、第一選択薬になり得る新たな作用点を持つEP2作動薬オミデネパグイソプロピルが加わり、有効性や安全性の面ではこの6種の点眼の組み合わせを考えれば良い。しかし、せめて3製剤までがアドヒアランスの面でも限界と思われ、配合剤の適切使用も重要となっている。日本で漸く、 $\alpha 2$ 作動薬との新しい組み合わせである $\alpha 2/\beta$ 作動薬配合剤と $\alpha 2$ 作動薬/炭酸脱水酵素阻害薬の配合剤が加わるようになった。これら6種の異なった作用点の薬剤、および新しい配合点眼薬の眼圧下降効果と安全性を十分に理解し、これまで以上に患者さん1人1人に即した薬剤選択が迫られる。本講演では緑内障薬物治療の最新情報を提供し、せいぜい3製剤までで患者に優しい薬剤選択ができるようなお話をさせて頂きたい。

事前視聴登録方法

Zoom 開催

こちらのアドレスから視聴の事前登録をお願い致します。

(https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_IFhCTXusRKOC7wSRFaXjPg)

QRコードはこちらです⇒



- ①お名前・アドレスを入力いただくだけで、事前視聴登録完了です。
- ②”事前登録完了メール“が届きます。
- ③23日 当日は、“事前登録完了メール”またはリマインドメールに記載されている「こちらから参加できます」をクリックしてWEBセミナールームにお入り下さい。

ご不明な点は、弊社担当者までご連絡ください。

担当者名：

TEL：

Mail：

